

# GE-60

NATURAL SOUND GRAPHIC EQUALIZER

取扱説明書・保証書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオグラフィックイコライザー GE-60をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

GE-60の優れた性能を充分に発揮させるとともに、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みくださいますようお願いいたします。

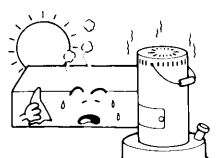
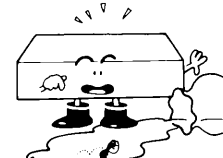
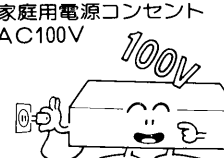
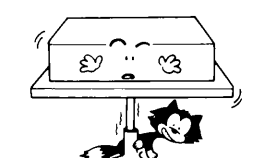
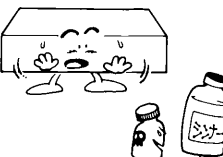
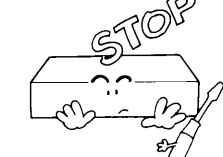
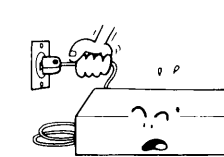
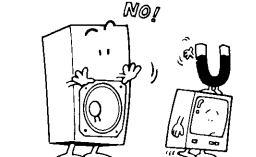

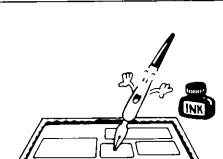

## 目 次

特長	1
豊かなオーディオライフのために	2
他の機器との接続は	3
各部の名称とはたらき	6
操作のしかた	11
故障かなと思ったら	20
参考仕様	21
ブロックダイアグラム	22
ヤマハホットラインサービスネットワーク	23

## 特長

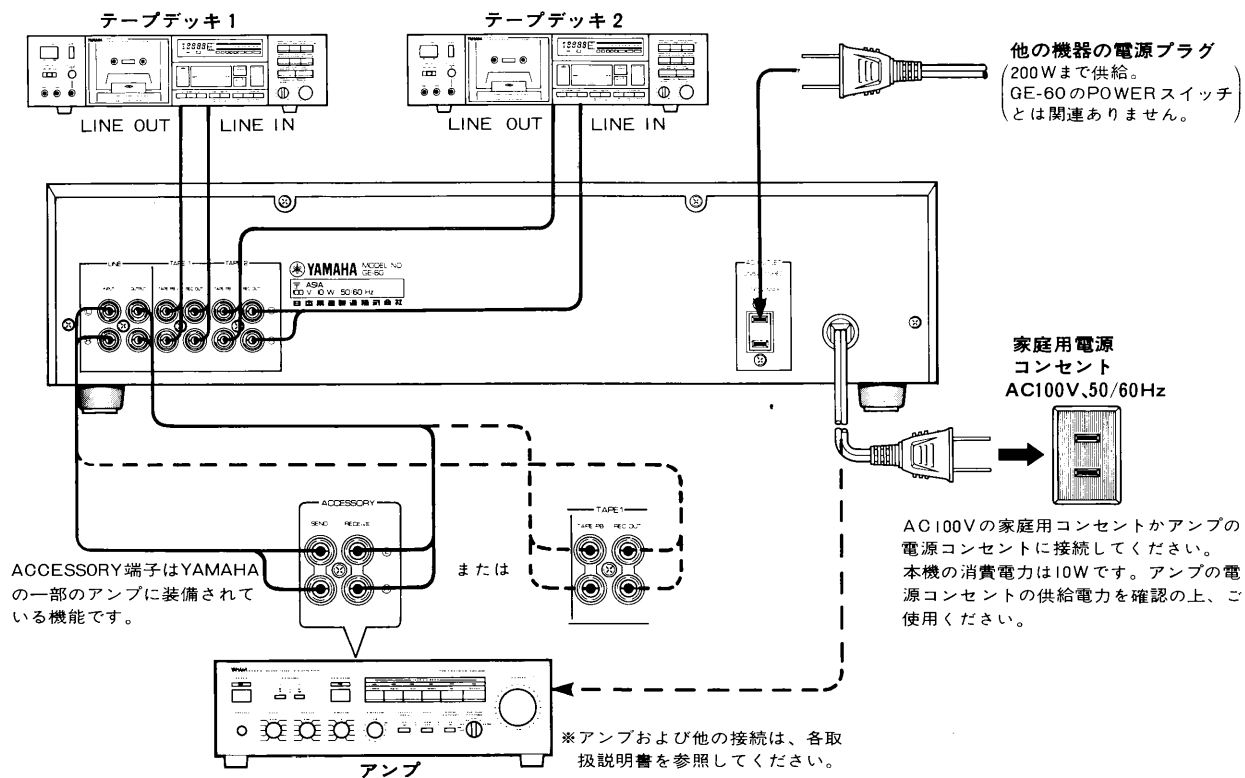
- 30Hz～16kHzまでを10分割し、LR独立してコントロールすることができます。
- スペクトラムアナライザーとのバンド対応などによって周波数分布をより正確に確認することができます。
- スペクトラムアナライザー、PINK NOISE ジェネレーターを内蔵しておりますので、マイクロホンとのペアによって本格的な音場測定が可能です。
- 音場補正時、特に問題となる低域も、周波数可変型サブソニックフィルター、ランブル・リデュース回路などによって、万全の対応が可能です。
- LINEとRECに使えるイコライザーモード。  
TAPEスイッチやTAPE用入出力(PB/REC)など、オーディオアンプとのマッチングを考えたマルチユースイコライザーで、よりアクティブな音創りがお楽しみいただけます。

# 豊かなオーディオライフのために

<p>高温をさけて！</p> 	<p>ほこり・水気をさけて！</p> 	<p>国内のみ使用可</p> <p>家庭用電源コンセント AC100V</p> <p>100V</p> 	<p>不安定な場所をさけて！</p> 
<p>薬物厳禁</p> 	<p>開けないで！</p> <p>STOP</p> 	<p>引っばらないで！</p> 	<p>磁気・テレビはさけて！</p> <p>No!</p> 
<p>こわれた？</p>  <p>20ページの「故障かなと思つたら」をご覧ください。</p>	<p>保証書の手続きを！</p> 	<p>取扱説明書はかならず保管してください。</p>  <p>ファイルなど</p>	

# 他の機器との接続は

●接続の際は、各機の電源を切り、左チャンネル(L)・右チャンネル(R)を確認して、正しく接続してください。



## ■ アンプとの接続

接続図を参照し、正しく接続してください。

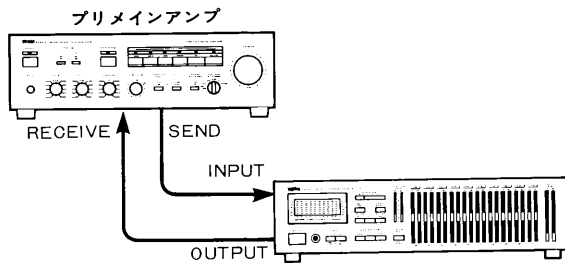
なお本機とアンプとの接続によって、またはアンプの機能によって入力操作(プログラムソースの選択)のしかたが異なります。

### プリメインアンプ(ACCESSORY端子付)との接続は、

ACCESSORY端子は、YAMAHAの一部のアンプに装備されている機能です。

1. ACCESSORY端子の **SEND** と本機の **LINE INPUT** を接続してください。
2. ACCESSORY端子の **RECEIVE** と本機の **LINE OUTPUT** を接続してください。

この接続では、プリメインアンプのインプットセクターで選んだプログラムソースのイコライジングが楽しめます。

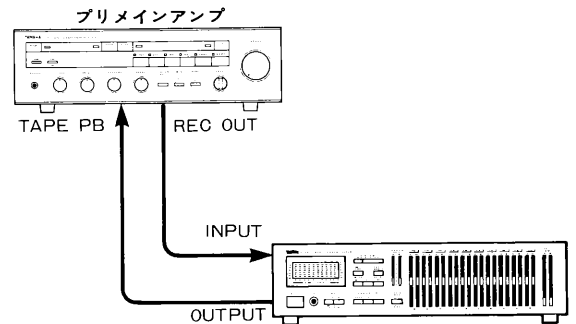


### プリメインアンプとの接続は、

1. TAPE端子の **REC OUT** と本機の **LINE INPUT** を接続してください。
2. TAPE端子の **TAPE PB** と本機の **LINE OUTPUT** を接続してください。

アンプによって操作が異なります。次のようにしてお楽しみください。

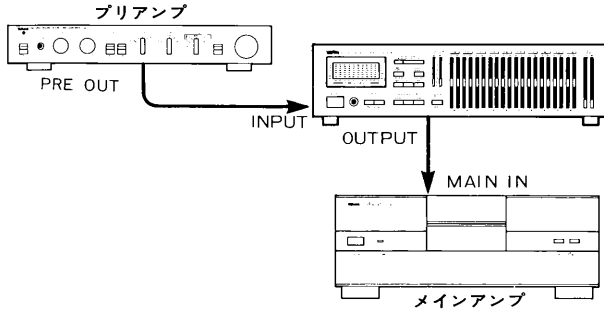
アンプ	プログラムソースは	セット
REC OUTセクターがある場合	REC OUTセクターで選びます。	インプットセクターをTAPEにセット
TAPE MONITORスイッチがある場合	インプットセクターで選びます。	TAPE MONITORスイッチをONにセット



### セパレートアンプとの接続は、

1. プリアンプの **PRE OUT** 端子と本機の **LINE INPUT** を接続してください。  
PRE OUT端子と接続した場合、プリアンプの **VOLUME** ツマミによって音量が調整されます。
2. メインアンプの **MAIN IN** 端子と本機の **LINE OUTPUT** を接続してください。

この接続では、プリアンプのインプットセクターで選んだプログラムソースのイコライジングが楽しめます。



注意：電源を ON する際は、プリアンプ・GE-60・メインアンプの順に行なってください。  
OFF する際は、メインアンプ・GE-60・プリアンプの順に行なってください。

5

### ■テープデッキの接続

TAPE 1、TAPE 2 端子にテープデッキの接続ができます。TAPE PB端子とテープデッキのLINE OUT端子、REC OUT端子とテープデッキのLINE IN 端子をそれぞれ接続してください。

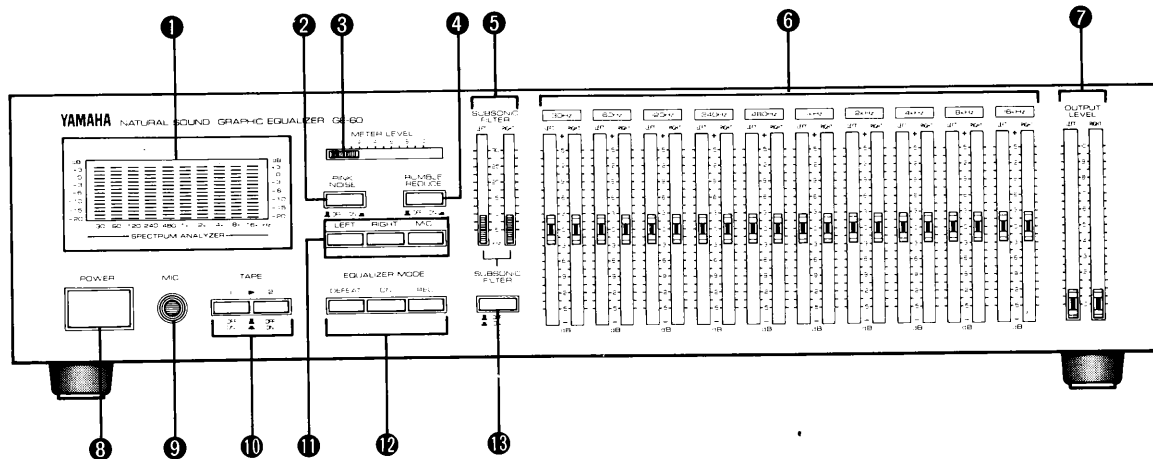
### ■予備電源コンセント(AC OUTLET)

消費電力200W以下のオーディオ機器に電源を供給するコンセントです。

本機のPOWERスイッチには関係なく常に電源を供給できる予備コンセントです。

注意：接続する機器の消費電力をお確かめのうえ、必ず200W以下でご使用ください。

# 各部の名称とはたらき



## ① スペクトラム アナライザー SPECTRUM ANALYZER

30Hz～16kHzを10分割した、オクターブバンドのスペクトラムアナライザーで、各帯域の信号レベルをピーク表示します。各バンドの周波数は、イコライザーコントロールの周波数と対応していますのでイコライザー効果を確認することができます。

## ② ピンク ノイズ PINK NOISE スイッチ

内蔵のジェネレーターによってピンクノイズを発生します。ピンクノイズは、各周波数に均一レベルで分布した信号で、音場周波数特性の測定などに使用します。

## ③ メーター レベル METER LEVEL ツマミ

スペクトラムアナライザーの表示レベルを加減します。"0"の位置では全く表示しません。左右にスライドし、周波数分布がモニターしやすいレベルとなるように調整してください。

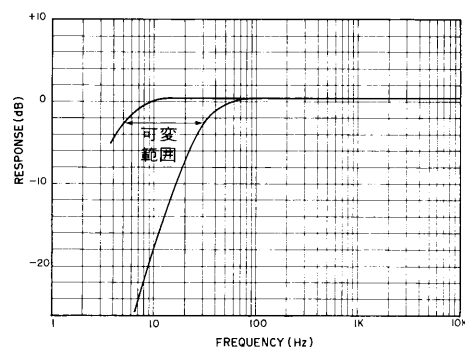
## ④ ランブル リデュース RUMBLE REDUCE スイッチ

100Hz以下の低域信号をL・Rミックスするスイッチです。左右異なった低域ノイズを音質の劣化することなく低減効果が得られます。

サブソニック フィルター  
⑤ SUBSONIC FILTER ツマミ

サブソニック・フィルターのカットオフ周波数(周波数特性で下りはじめる周波数)を調整するつまみです。  
5 Hz～30Hzの任意の周波数をL、Rそれぞれ調整(選択)することができます。プレーヤーの共振周波数やレコードのソリなどによるスピーカーの超低域振動(コーン紙のフラつき)を防止します。ご使用になる場合は③SUBSONIC FILTERスイッチをON  にしてください。

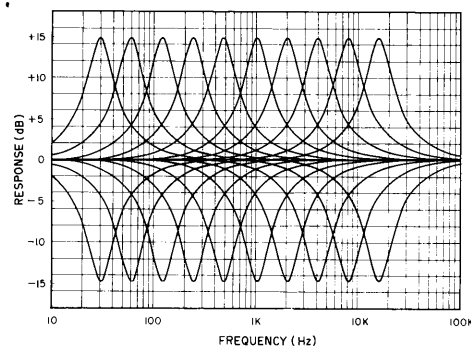
SUBSONIC FILTER



⑥ イコライザーコントロールつまみ

各コントロール上部に表示された周波数付近のレベルを、L、R別々に+15dB～-15dBまで連続的にコントロールして、音質の補正ができます。  
中央“0”の位置でレベルはフラットになり、この位置より上側にスライドすると、その周波数を中心としてレベルが強調され、下側にスライドするとレベルが減衰します。  
お好みの音質に各周波数のレベルをコントロールしてください。  
※EQUALIZER MODEスイッチが“DEFEAT”にセットされているときは、コントロール操作しても音質補正は行なえません。

EQUALIZER





#### ● 30Hz

ツマミを一側にすると、ホールの空調ノイズやレコードのそりなどによる超低域ノイズを抑えることができ、さらに重低音のはぎれがよくなります。

逆に+側にすると、超低域が強調され音の安定感とともに雰囲気感が増します。

#### ● 60Hz

一側にすると、電子楽器などのハム雑音や低域のこもりなどが取り除かれ、音がクリアになります。

+側にすると、パイプオルガンやドラム、ベースなどの重低音が強調され、音に安定感が出てきます。

#### ● 120Hz

この付近は音楽の低域を支える音域で、低音部の厚みをコントロールすることができます。また、リスニングルームなどにより音がこもる場合には、ツマミを一側にすることによりくもりが取れます。

#### ● 240Hz

中低音の音域ですが再生音全体にも影響します。おもに、弦楽器の厚みなどがコントロールできます。やはり、リスニングルームの状態で音がこもる場合には、ツマミを少し下げてください。

#### ● 480Hz

楽器や人の声を含み、音楽の基礎となる帯域で、音の力強さが左右されます。ツマミを上げると、音に力強さ、量感、暖かさなどが加わってきます。

#### ● 1kHz

音楽の臨場感(音の奥行きと深み)に影響する帯域で、特にボーカル曲などの再生に有効です。ツマミを上下させますと、声か前に出てきたり、奥に引っこんだりします。

#### ● 2kHz

最も耳につきやすく、刺激的に感じる帯域です。わずかに増強するだけで楽器の明るさ、華やかさ、歯ぎれの良さなどが出てきます。逆にツマミを下げぎみにすると、疲れない聴きやすい音になります。

#### ● 4kHz

2kHz付近同様耳につきやすい帯域です。主に音のつやの増減に効果があります。

ツマミを少し上げると、弦楽器のはりなどが浮き上がり、かすかにこする音なども自然な感じになります。

また、聴き疲れするような音楽の場合には、ツマミを少し下げぎみにしますと聴きやすくなります。

#### ● 8kHz

高音域です。弦や管楽器なども強調され、音の艶など音質に微妙な変化を与えます。

ツマミを下げると、刺激的に聞こえる声の子音や、テープのヒスノイズなども減らすことができます。

逆にツマミを上げると、例えばシンバルの“シャーン”という響き、余韻までも表現できます。

#### ● 16kHz

超高音域で、楽器そのものの音というより余韻の領域に入り、音楽の繊細感、雰囲気感を左右します。

ツマミを上げると、シンバルやトライアングルなどは快い響きとともに音に広がりや繊細感が出てきます。

<sup>アウトプット</sup> <sup>レベル</sup>  
⑦ **OUTPUT LEVEL** ツマミ

本機のLINE OUTPUTレベルをコントロールします。  
LEFT、RIGHTを別々に操作することで左右のバランス調整も可能です。  
※ REC OUTレベルは変化しません。

<sup>パワー</sup>  
⑧ **POWER** スイッチ

本機の電源をON、OFFするスイッチです。  
スイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

<sup>マイク</sup>  
⑨ **MIC** ジャック

スペクトラムアナライザー用マイク入力端子です。  
付属のマイクロホンを接続し、音場特性測定用に使用する端子です。

<sup>テープ</sup>  
⑩ **TAPE** モニター スイッチ

テープの再生やテープコピーするときに使用します。

プログラムソースの選択	TAPE 1	TAPE 2
INPUT(プログラムソース)を再生したいとき	OFF	OFF
TAPE 1の音を再生したいとき	ON	OFF
TAPE 2の音を再生したいとき	OFF	ON
TAPE 1からTEPE 2にコピーしたいとき	ON	ON

⑪ **メーターセレクト** スイッチ

SPECTRUM ANALYZERの表示モードを選択するスイッチです。

**LEFT・RIGHT** : イコライザーを通過した後の信号の周波数分布をモニター表示します。

LEFT、RIGHTスイッチの両方をONするとL、Rミックスした周波数分布をモニター表示します。

**MIC** : MICジャックに接続された入力信号を表示します。

(音場特性測定時などに使用します。)

※ PINK NOISEスイッチをONにしますと、LEFT、RIGHTスイッチで、ピンクノイズレベルを表示することができます。

<sup>イコライザー</sup> <sup>モード</sup>  
⑫ **EQUALIZER MODE** スイッチ

イコライジングをするモードを選択します。

**DEFEAT** : イコライザーコントロールツマミの位置に関係なくフラットな特性になります。

**ON** : イコライザーコントロールツマミのインジケーターが点灯し、イコライジングができます。

**REC** : REC OUTの信号に対してイコライザーが働きます。

<sup>サブソニック</sup> <sup>フィルター</sup>  
⑬ **SUBSONIC FILTER** スイッチ

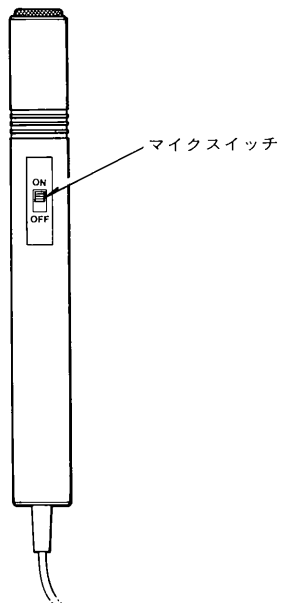
サブソニック・フィルター(ローカット・フィルター)をON、OFFするスイッチです。

SUBSONIC FILTERツマミによって選択した周波数、(5 Hz~30Hz)以下の低域をカットします。

●MM-60(コンデンサーマイクロホン)

本機には、付属品として音場測定専用のコンデンサーマイクロホンがあります。使用する際、マイクスイッチをONにしてください。

※長い間マイクロホンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。



電池の交換は

①ふたをはずす。

②単3型 (SUM-3) 乾電池の⊕⊖を確かめて入れてください。

③電池交換後は、「カチッ」と音がするまでふたをしめてください。

電池の交換時期は？  
電池が消耗してきますと、マイク感度が弱くなります。電池は、早めに交換してください。

The diagram illustrates the battery replacement process. It shows the microphone with the cap removed, a SUM-3 battery being inserted into the compartment, and the cap being closed. The steps are numbered 1 through 3. Below the diagram, there is a section titled '電池の交換時期は？' (When to replace the battery?) with a warning that microphone sensitivity decreases as the battery drains and that the battery should be replaced early.

# 操作のしかた

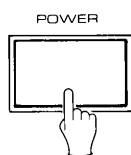
本機は、30Hz～16kHzを1オクターブごとに10分割してコントロールすることができますから、トーンコントロールでは、できない細かい音質補正を行なうことができます。また、内蔵のピンクノイズジェネレーターとスペクトラムアナライザーを組み合わせることにより、定量的にリスニングルームの音場特性を測定して補正を行なうこともできます。

## ＜操作の前に＞

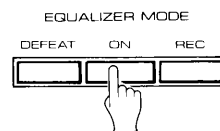
- アンプおよびテープデッキ等の操作は、各々の説明書を参照してください。
- 接続するアンプ等のトーンコントロールなどは“FLAT”あるいは“DEFEAT”にしてください。

## ■音質補正を加えたプログラムソースの演奏

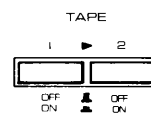
**1** POWERスイッチを押します。



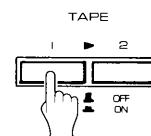
**2** EQUALIZER MODEスイッチのONを押します。



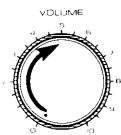
**3** プログラムソースを選択します。  
アンプに接続されているプログラムソースを再生する場合は、本機の TAPE モニタースイッチを“OFF”にします。(次ページの図1参照)  
(アンプ側のプログラムソースの選択は、アンプによって操作が異なりますので、4～5ページの「アンプとの接続」の項を参照してください。)



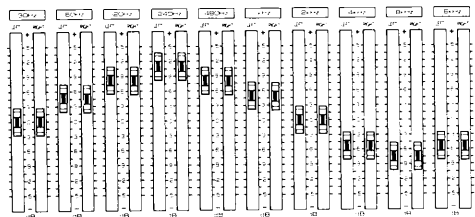
本機に接続されたテープデッキを使用する場合は、TAPEモニタースイッチの1または2を“ON”にしてください。(13ページの図2、3を参照)



**4** プログラムソースを演奏し、アンプのボリュームコントロールで音量を調整します。



**5** 音楽を聴きながらイコライザーコントロールを操作して、お好みの音質に補正してお楽しみください。



※EQUALIZER MODEスイッチのON/DEFEATに交互に操作しますと、音質効果を確認することができます。

レコードプレーヤー演奏時の信号経路

TAPE 1、2 → OFF  
EQUALIZER MODE → ON

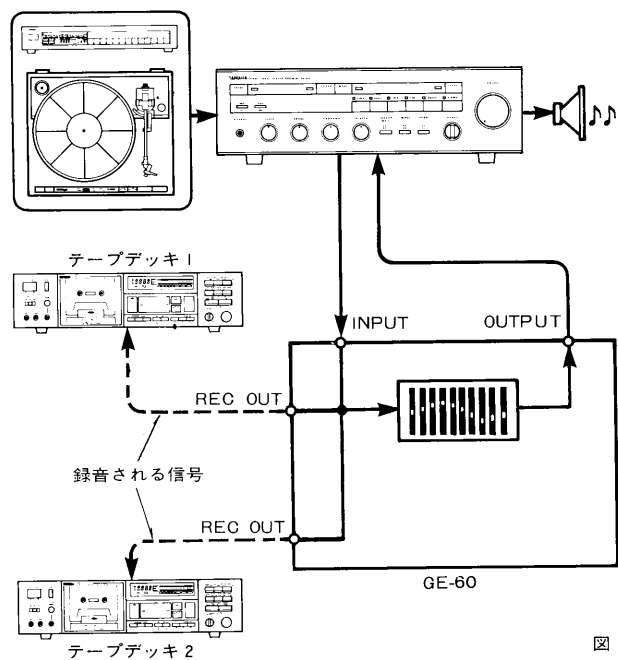


図 1

テープデッキ 1 演奏時の信号経路

TAPE 1 → ON  
 TAPE 2 → OFF  
 EQUALIZER MODE → ON

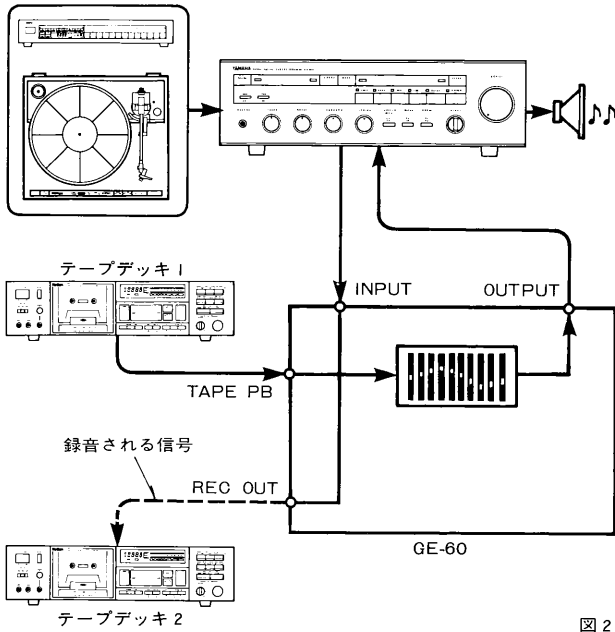


図 2

テープデッキ 2 演奏時の信号経路

TAPE 1 → OFF  
 TAPE 2 → ON  
 EQUALIZER MODE → ON

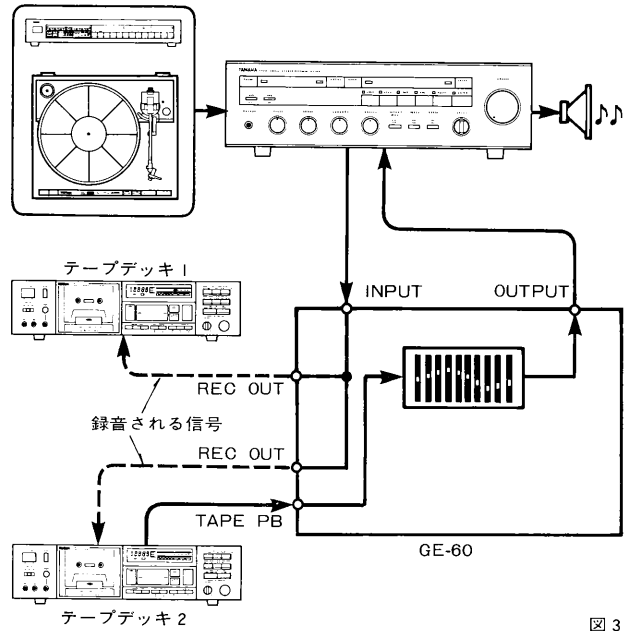
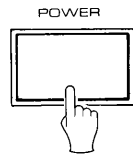


図 3

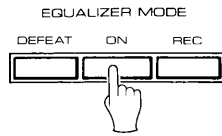
## ■音質補正されたプログラムソースの録音

音質補正されたプログラムソースを、本機のTAPE REC端子に接続したテープデッキに録音することができます。

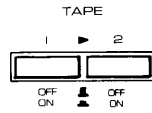
- 1** POWERスイッチを押します。



- 2** EQUALIZER MODEスイッチのONを押します。

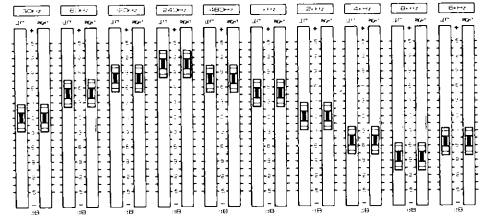


- 3** TAPEモニタースイッチの1、2をOFFにします。  
(次ページの図4参照)

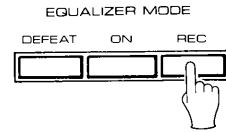


- 4** アンプ側を操作して、録音するプログラムソースを選びます。

- 5** イコライザーコントロールを操作して、好みの音質に補正します。



- 6** EQUALIZER MODEスイッチのRECを押します。



※音質補正を加えないで録音したい場合は、RECをもう一度押しOFFにします。

- 7** テープデッキを操作して録音レベルを調整し、録音を始めます。

※本機は、録音モニターすることが可能です。

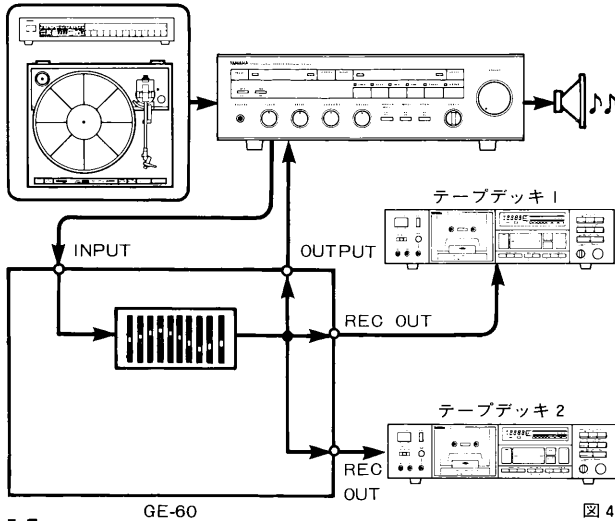
録音モニター（録音中に録音された音を再生）は録音用と再生用のヘッドが独立している3ヘッドタイプのテープデッキをご使用の場合に行なえます。

TAPEモニタースイッチで録音しているデッキ側をONしてください。

（録音／再生兼用ヘッドを使った2ヘッドタイプのテープデッキでは、録音モニターを行なえません。）

音質補正されたプログラムソースの録音

EQUALIZER MODE→ON、REC  
TAPE 1、2→OFF



15

図4

音質補正されたプログラムソースの録音モニター

EQUALIZER MODE→ON、REC  
TAPE 1→OFF TAPE 2→ON

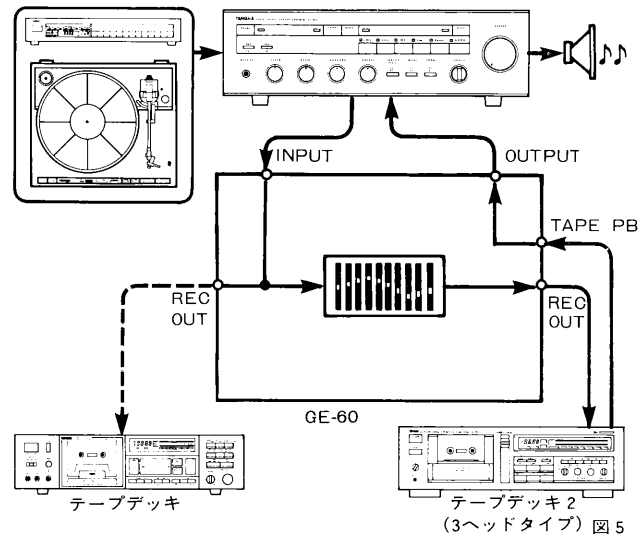


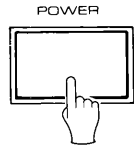
図5



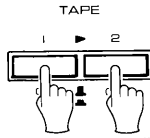
## ■テープからテープへのコピー

2台のテープデッキをご使用になれば、録音済みのテープに音質補正を加えて、別のテープに録音するテープコピーが行なえます。

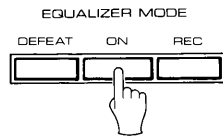
**1** POWERスイッチを押します。



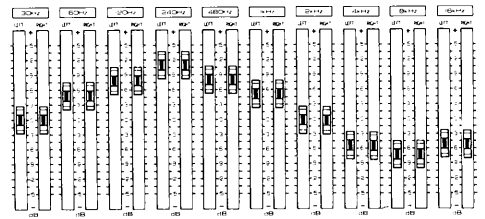
**2** TAPEモニタースイッチの1、2をONにします。  
(次ページの図6参照)



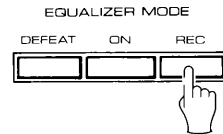
**3** EQUALIZER MODEスイッチのONを押します。



**4** テープデッキの1を操作してテープを再生し、イコライザーコントロールを操作して音質を補正します。



**5** EQUALIZER MODEスイッチのRECを押します。

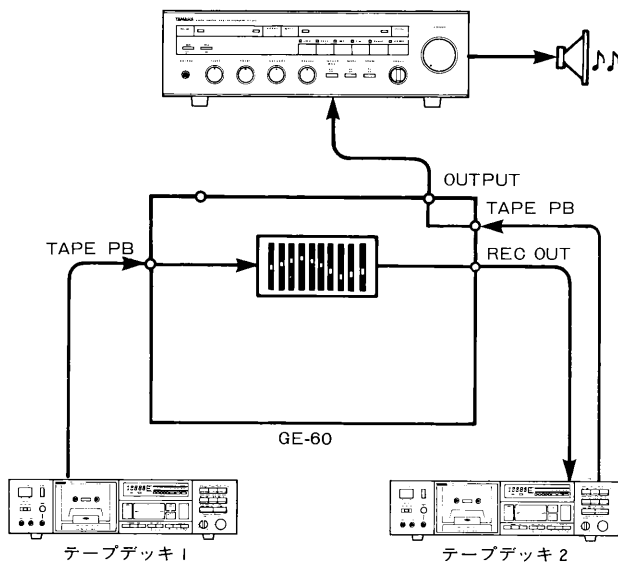


**6** テープデッキの2を操作して録音レベルを調整して、テープコピーを始めます。

※テープデッキ2から1には、テープコピーできません。

テープコピー

TAPE 1、2 → ON  
EQUALIZER MODE → ON、REC



■音場特性の測定と補正

スピーカーで再生した音は、部屋特性（広さや、壁や家具の吸音率など）により低域から高域にかけてそれぞれの周波数が強められたり弱められたりします。原音を忠実に再生するには、この特性を各周波数バンドごとに測定し、それぞれのレベルがフラット（平坦）になるように調整することが望まれます。

リスニングポイントで下のような特性が測定できた場合



イコライザーコントロールツマミでSPECTRUM ANALYZERの各周波数バンドがフラットになるように調整します。

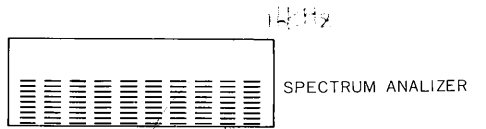
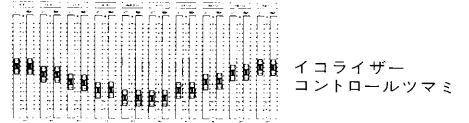
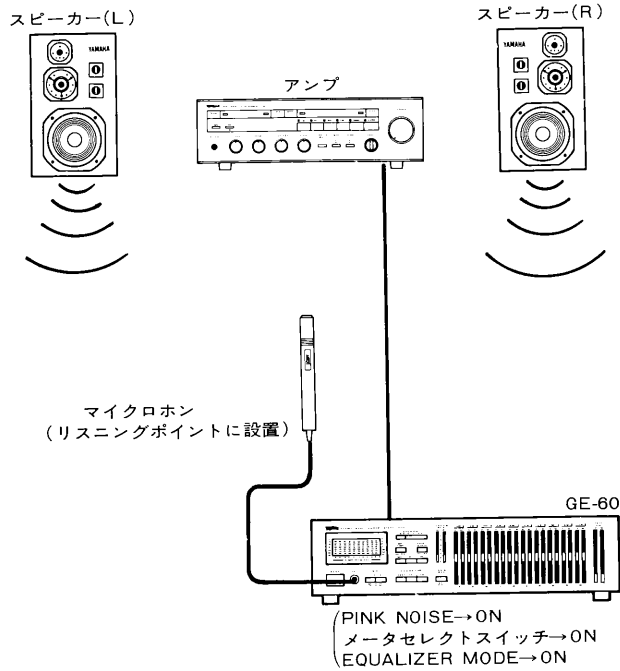


図 6

このように30Hz～16kHzまでフラットになれば音場補正は完了ですが、さらにお好みの音質に補正してお楽しみください。

### ●音場特性の測定方法

1. まずリスニングルームの音響特性を測定します。付属の音場測定用のマイクロホンを接続し、マイクロホンをリスニングポイント(聴くときの耳の位置)へ設置します。



2. 各ツマミを次の位置にセットします。

**アンプ**   メインボリューム       →最少  
              トーンコントロール   →フラット

**GE-60**   OUTPUT LEVEL       →最大(10)  
              イコライザーコントロール →センター(0)  
              SUBSONIC FILTER   →OFF ■  
              EQUALIZER MODE   →DEFEAT  
              メータセレクトスイッチ →MIC、LEFT、RIGHT  
              RUMBLE REDUCE    →OFF ■  
              PINK NOISE        →ON ■  
              METER LEVEL     →最大(10)  
              TAPEモニタースイッチ →OFF ■

**マイクロホン**   マイクスイッチ   →ON

3. アンプのメインボリュームを徐々に上げてゆきますと、スピーカーから“ザー”という音(ピンクノイズ)が聞こえます。ボリュームを普段の音量レベルにセットします。このとき、スペクトラムアナライザーの指示レベルが上がり過ぎたらMETER LEVELツマミを少しずつ下げ、全体の指示レベルがほぼ中央よりやや上となるように調整します。

### ●音場補正のしかた

1. 各ツマミ位置を確認してください。

OUTPUT LEVEL	→最大
イコライザーコントロールツマミ	→センター
SUBSONIC FILTER	→OFF ■
EQUALIZER MODE	→DEFEAT
メーターセレクトスイッチ	→MIC、LEFT、RIGHT ■
RUMBLE REDUCE	→OFF ■
PINK NOISE	→ON ■
TAPEモニタースイッチ	→OFF ■

2. EQUALIZER MODEスイッチのONを押します。

3. メーターセレクトスイッチのLEFTをOFFにします。  
(片チャンネルずつイコライジングし、最後にオーバーオールで調整します。)

4. 今、Rチャンネルの音が出てます。またスペクトラムアナライザーの指示はRチャンネルの特性を示しています。

5. RIGHT側のイコライザーコントロールツマミを動かし、スペクトラムアナライザーの指示がフラットとなるように調整します。

6. メーターセレクトスイッチのLEFTをONにしてRIGHTをOFFにします。

Rチャンネルと同様にスペクトラムアナライザーの指示がフラットとなるようにLEFT側のイコライザーツマミを調整します。

7. メーターセレクトスイッチを両チャンネルともONにします。

8. 両チャンネル同時に音が出ている状態で再度スペクトラムアナライザーをチェックし、再調整します。

これでオーバーオールの音場補正が終わりました。

# 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ・サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
音が出ない。	TAPEモニタースイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。
	OUTPUT LEVELツマミがさがっている。	OUTPUT LEVELツマミを上側にスライドしてください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
片側から音がでない。	OUTPUT LEVELツマミのLか、Rのどちらかがさがっている。	OUTPUT LEVELツマミを正しく調整してください。
	ピンプラグの接続が不完全。	接続を確認してください。
音質補正ができない。	EQUALIZER MODEスイッチが“DEFEAT”になっている。	“ON”にしてください。
SPECTRUM ANALYZERが点灯しない。	METER LEVELツマミが“0”になっている。	METER LEVELツマミを右にスライドしてください。
	スペクトラムアナライザーセレクトスイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。

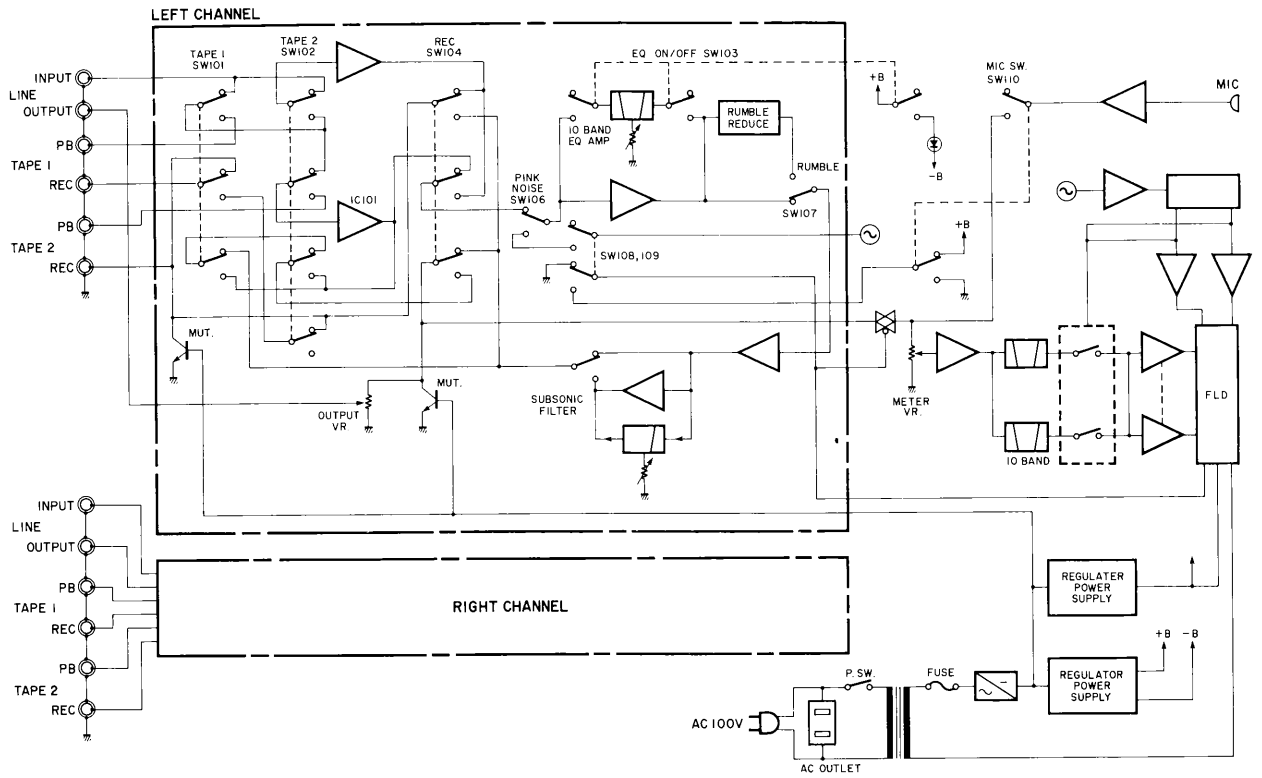
# 参考仕様

<b>入力感度／インピーダンス</b>	
LINE IN、TAPE	1V/47k $\Omega$
MIC	0.3mV/47k $\Omega$
<b>出力電圧／インピーダンス</b>	
LINE OUT、REC OUT (OUTPUT LEVEL→Max.)	1V/600 $\Omega$
<b>周波数特性</b>	
10Hz～100kHz	+0.5dB -1
<b>イコライザーコントロール</b>	
中心周波数	30Hz、60Hz、120Hz、240Hz、480Hz 1 kHz、2 kHz、4 kHz、8 kHz、16kHz
可変範囲	$\pm 15$ dB
<b>S/N比(入力ショート、IHF Aネットワーク)</b>	
1V出力時	110dB
<b>全高調波歪率</b>	
20Hz～20kHz、1V出力	0.005%
<b>最大出力(0.1%)</b>	
	10V

<b>サブソニックフィルター</b>	
カットオフ周波数	5 Hz～30Hz
(SUBSONIC FILTERコントロールにて設定)	12dB/oct
<b>ランブルリデュース</b>	
	100Hz以下ステレオ→モノラル
<b>ピンクノイズ出力</b>	
	150mV RMS
<b>ディスプレイ表示</b>	
	10バンド LまたはR/L+R/MIC切換
<b>電源</b>	
	AC100V 50/60Hz
<b>消費電力</b>	
	10W
<b>外形寸法(W×H×D)</b>	
	435×112×275mm
<b>重量</b>	
	4.4 kg
<b>付属品</b>	
	ピンプラグコード×2 MM-60(コンデンサーマイク) マイクスタンド 乾電池…単3(SUM)×1

※仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

# ブロックダイアグラム



# ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスの依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ●ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道 〒065 札幌市東区本町1条9-3  
TEL (011) 781-3621

仙台 〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

TEL (0222) 36-0249

東京 〒211 川崎市中原区木月1184

TEL (044) 434-3100

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F

TEL (0252) 43-4321

浜松 〒432 浜松市東伊場2-13-12

TEL (0534) 56-9211

名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2

日本楽器流通センター3F TEL (052) 652-2230

大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

TEL (06) 877-5262

四国 〒760 高松市丸龜町8-7 日本楽器高松店内

TEL (0878) 51-7777 (0878) 22-3045

広島 〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39

九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL (092) 472-2134

本社 営業技術課 音声サービスセンター 〒430 浜松市中沢町10-1

TEL (0534) 65-1111

## ■ステレオ営業所

北海道 〒064 札幌市中央区南10条1-4 ヤマハセンター内

TEL (011) 512-6115

仙台 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル

TEL (0222) 23-3101

東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F

TEL (03) 255-6767 (03) 255-5691 (03) 255-2201

(03) 255-1825 (03) 255-2605 (03) 255-4701

横浜 〒211 川崎市中原区木月1184

TEL (044) 434-4871

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 ヤマハ新潟センター内

TEL (0252) 41-2084

千葉 〒260 千葉市千葉港2-1 千葉中央コミュニティーセンター内

TEL (0472) 47-6622

水戸 〒310 水戸市三ノ丸1-4-73 三井ビル5F

TEL (0292) 24-7774

高崎 〒370 高崎市蓮雀町75 ヤマハ高崎月販内

TEL (0273) 27-3322

静岡 〒422 静岡市緑ヶ丘町1-15 緑ヶ丘ビル48

TEL (0542) 85-4878

浜松 〒432 浜松市東伊場2-13-12

TEL (0534) 56-4461

名古屋 〒464 名古屋市中区東山通5-65

ヤマハ東山センター3F TEL (052) 782-7551

北陸 〒920 金沢市武蔵町2-12 むらばたビル5F

TEL (0762) 21-2166

関西 〒556 大阪市浪速区数津東 1-9-16 ヤマハなんば

センター内 TEL (06) 647-6411

中国 〒730 広島市中区八丁堀10-14

TEL (082) 221-4123

四国 〒760 高松市丸龜8-7 ヤマハビル7F

TEL (0878) 22-8642

北九州 〒803 北九州市小倉区堅町2-3-13

ヤマハ小倉センター内 TEL (093) 592-3122

九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL (092) 472-2131

## ■ヤマハオーディオ日本楽器直営店

札幌店 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目

ヤマハセンター TEL (011) 512-6126

仙台店 〒980 仙台市一番町2-6-5

TEL (0222) 27-8517

銀座店 〒104 東京都中央区銀座7-9-14

TEL (03) 572-3133

浜松店 〒430 浜松市緑治町321-6

TEL (0534) 54-4327

名古屋店 〒460 名古屋市中区錦1-18-28

TEL (052) 201-5153

心斎橋店 〒542 大阪府南区心斎橋筋2-39

TEL (06) 211-8869

神戸店 〒650 神戸市中央区元町2-7-3

TEL (078) 391-7651

海外拠点 ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・

スウェーデン・シンガポール・フィリピン

日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.(0534) 65-1111(代)

住所および電話番号は変更になる場合があります。